八幡平市におけるＣＣＲＣに関する研究

宮城好郎、狩野徹、吉田清子、白石雅紀[1)]、館山壮一[2)]

１．目　的

アクティブな高齢者が地方に移住してコミュニティを形成するという、新しいコンセプトの「高齢者向け住宅」を中心としたCCRC(Continuing Care Retirement Community)に注目が集まっている。政府も、CCRCを地方創生の柱と位置づけ、CCRCにおける活動的な高齢者（アクティブシニア）を積極的にサポートし、「やりがい」や「いきがい」をもとにした能動的な健康寿命の延伸を目指している。

今後、CCRC事業を推進していく上で、既に始動している事業者とともに今後のあり方を検討していくことが重要となる。

そこで､本研究では｢オークフィールド八幡平」（CCRC事業者）を対象にして、八幡平市におけるCCRCに関するあり方を検討するための予備的な考察を行うことを目的とする。

２．方　法

本研究では、まず文献等を通してCCRCについて先行研究の整理を行った。また、他地域での「生涯現役」のまちづくりの先進事例として秋田県藤里町社会福祉協議会の取り組みについて、現地にて聞き取り調査等を行い、CCRCに関するあり方の検討を行った。続いて八幡平市でCCRCを展開している「オークフィールド八幡平」に対して複数回、現地で聞き取り調査を行いCCRC事業の検討と大学との連携について考察を行った。

３．研究の概要

CCRCでは活動的な高齢者を積極的にサポートし、「やりがい」や「いきがい」をもとにした能動的な健康寿命の延伸を目指していること､アメリカでは約2,000ヵ所のCCRCに70万人以上の高齢者が移り住んでいること、居住者は地域や大学を通じた知的刺激、世代間交流によって人生に新たな目標を見出し、活動的で有意義な日々を送っていること等が分かった｡政府も､CCRCを地方創生の柱と位置づけているなか、新しいコンセプトの「高齢者向け住宅」を中心としたCCRCに注目が集まっていることも分かった。

本学とのオークフィールド八幡平との連携を通した生涯学習の可能性について検討した。具体的には、ＩＣＴを活用した講義の導入によるCCRCの居住高齢者や八幡平市の地域住民が大学の講義を受講しながら、あるいは自ら講義をするなど、本学学生と双方向でディスカッションできる仕組みを検討した｡具体には､Skypeをはじめとした動画付き音声通話システムの可能性、現地には学生らからなるサポートスタッフを配置するなど、学生との交流事業につなげていくこと等についても考察した。

さらに、日本版「CCRC」は、政府では「生涯活躍のまち｣という政策名称になっているため､「生涯活躍のまち」のまちづくりを推進している先進事例「秋田県藤里町」について勉強会・現地踏査・ヒアリング調査を行った。

CCRC事業は、高齢者がやりがい・生きがいや健康を得て、それが同時に地域の再生につながるような、まちづくりの視点で行う必要がある。「八幡平型CCRC」モデルとして推進するにあたり「藤里モデル」が有用であることを示した。さらに、コンパクトシティの観点からも、八幡平型CCRCを構想していく必要性があることも示した。

４．結　果

結論として、CCRC事業は、高齢者がやりがい・生きがいや健康を得て、それが同時に地域の再生につながるような、まちづくりの視点を持って行う必要があり、それを「八幡平型CCRC」モデルとして推進することが肝要である。当該事業側に大学との連携を通したCCRC事業の導入のための方策や課題等の提案を具体的に行った。

５．今後の課題

研究成果を踏まえ、大学との連携を通したCCRC事業の導入のための方策や課題等を事業者側に提案することができた。本研究のなかでは、当該事業者の入居者に対して大学等と連携した生涯学習サービスを提供することが検討されているが、八幡平市には大学がなく、移動が負担となる高齢者に対して生涯学習サービスを提供することが難しいという課題がある。代替手段として遠隔講義によるサービス提供を検討しているが、高齢者コミュニティに対する遠隔講義実施の実例は少なく、国内に有力な事例がほとんどないことから新しい手法を模索、研究する必要があると思われる。

今後とも当該研究を通じ、提案の具現化とCCRC事業導入による八幡平市の地域活性化を支援していく予定である。

[1)] 東京未来大学　[2)] 岩手県立大学大学院社会福祉研究科博士後期課程